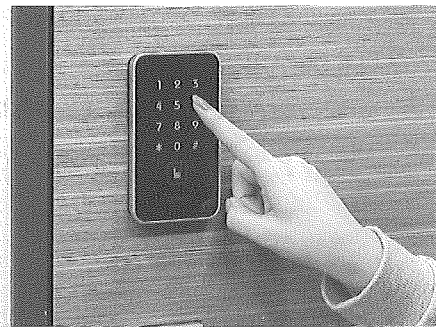


鍵のない安心と便利さを

鍵の開け閉めは日常の安全を確保するための大事な作業だが、シニアにとっては意外と困難を伴うことが多い。2033年には「3戸に1戸が空き家」になるとも言われており、その分、空き巣被害の増加も心配だ。セリユールでは、電池式で扱いやすいオートロック電子錠の普及を通じて、シニアの不安解消の一助をめざしている。長島理恵代表が大切にしている、高齢者目線のサービス展開を聞いた。

便利、そして防犯にも

セリユールが提供するの、高齢の入居者にも扱いやすいオートロック電子錠。長島代表が同社を立ち上げるきっかけは、海外出張中に偶然見た韓流ドラマ。自動でドアが閉まり、鍵なしで解錠するシーンを見て、そのシンプルかつ高機能な商品性に心奪われた。韓国ではオートロック電子錠が9割まで普及する一方、日本の普及率は低い。「オートロック電子錠なら、ドアを閉めるだけで自動的に施錠ができ、解錠も暗証番号の入力で済みます。ちょっとした外出でも鍵を持たずに済む



暗証番号で解錠できる手軽さが魅力。鍵をなくす心配もないので、シニアにも人気だ。

便利さに加え、防犯にも有効です」。なにより自分で使ってみないと、強く感じたそうだ。

09年5月に資本金300万円で、たった1人で起業。工場を所有せずに製造業を行う「ファブレス方式」とすることで、企画、設計、販売に集中してきた。現在では、暗証番号の入力のほか、スマートフォンでも解錠できる「DECIMEL」(別途スマートキーモデルあり)

と、同じく20メートル離れた場所からでも解錠できるリモコンを兼ね合わせた「Premia II」を主力に販売している。単三電池4本で動き、大掛かりな配線工事がいらぬ点も特徴だ。

富裕層だけのものではない

実際、こうしたオートロック電子錠の機能は、シニアの生活にも大きな利便性をもたらしている。侵入窃盗犯罪に遭遇する事案で、もっとも多い原因は「無施錠状態」であり、鍵の閉め忘れで不安を抱きやすい高齢者にとって、オートロックの

利点は大きい。最近では、家人が在宅中の家屋に忍び込んで金品を盗む“居空き強盗”も増えており、その必要性はさらに高まっているといえる。また荷物で両手が塞がっていたり、車椅子、杖などのお世話になっている場合でも、鍵を取り出すことなしに解錠することも可能だ。加齢による視力の低下で錠穴や裏表の判別に戸惑う不便の解消にもつなが

セリユール (LA SERRURE)

設立：2009年5月
住所：東京都中央区銀座4-13-15
成和銀座ビル7階
売り上げ：約3億3,000万円
資本金：1,000万円
取扱店：ネット通販、テレビ通販、ハウスメーカー、百貨店、ディベロッパーなど

*数字は2016年3月末現在

代表取締役

長島 理恵(ながしま りえ)
東京都出身。大手総合商社、大手広告代理店、外資系広告代理店を経て、ニューヨークへ滞在中に韓国ドラマを通じてオートロック電子錠を知る。そして、その新しい鍵に未来を感じ2009年5月、セリユール設立。12年自社開発製品を販売開始、メーカーとして本格始動。



る。さらに足腰に不自由があり、家族の帰宅による解錠が困難なケースでも、2階からドアホンで確認し、リモコンで対応するといった使い方もできる。

長島代表は商品開発に際して、安全性をベースにしつつ、スタイリッシュなデザイン、機械が苦手な人でも扱いやすい操作性、求めやすい価格といった点を重視している。「セキュリティは富裕層だけのものではなく、高齢者や体の不自由な方、お子さまのいる家庭など、安全と利便性を必要とするところすべてにあるべきもの」との考えからだ。オートロック電子錠への理解が進み、現在では医療施設、高齢者施設への導入も進んでいる。また利用者の鍵の受け渡しが負担となる民泊施設の要望に応え、スマートフォンで解錠できる手法を開発、その利用にも関心が集まっている。

高まる自助努力の必要性

利用者層は、通販系でみると50～60代が中心で、圧倒的に女性からの引き合いが多い。本人はもとより、高齢の両親、または子ども

世帯にプレゼントする用途も目立つという。消費税、取付費込みで、定価で7万～10万円ほどになるが、認知度が高まってきたこともあり、ここ1～2年は年間で約2万台を販売。起業以来、売り上げも毎年純増しており、16年3月末には約3億3,000万円に。「日本には鍵をかけない古き良き生活習慣もあるが、それが不幸な事件を招く残念な例もでており、安全に対する自助努力の必要性は高まっていると思います。当社のサービスを通じて、鍵を持たない手軽さとあわせて、普段の生活で“何となく感じる不安”を解消していきたい」と。

今後は、高齢者向け施設などへの直接アプローチで、さらに認知度アップをめざすほか、施設から要望の多い、引き戸に対応したオートロック電子錠の開発も積極化。また米国をはじめインドネシアなど海外進出にも着手しており、その展開も課題だ。

セリユールはフランス語で「錠」の意味。これからのシニアの安心・便利な生活は、鍵のない世界に広がっている。

識者の論点



ニッセイ基礎研究所
主任研究員
前田展弘

自宅をオートロックにする、という発想がそもそもなかった私にとって、当社のサービスはとても新鮮で素敵なものに映った。鍵の閉め忘れや紛失の心配がなくなり、防犯に有効であることは、特に高齢者にとっては魅力的なことではないだろうか。体が不自由な人にも解錠は容易とのことであり、高齢者及び障害者向けの市場拡大が期待されている今日、当サービスはとても有望視されるところである。